20200221 関西学生ハンドボール連盟　松木

関西学生ハンドボール連盟　リーグ戦会場インフォメーションデスクについて（提案）

Ⅰ．提案の背景

現在、サッカーやバレーボール、バスケットボールをはじめとする大学スポーツの試合会場では、来場者に向けて様々なサービスを提供するためのデスクが設置されている。

（例：会場案内、大会（試合）プログラム販売、グッズ販売 etc…）

→現在の学生ハンドボール界をみると、全日本インカレや西日本インカレではデスクが設置されているが、各地区学生リーグではみられない（集中開催地区では設置されているケースもある）

そもそも・・・
関西学生ハンドボール連盟におけるリーグ戦の集客（観戦者増加）戦略として・・・

①新規観戦者を増やす
→ 様々な広報戦略が鍵となる

②観戦者の満足度の向上
→ 「ハンドボールを、学生リーグを観に来てよかった」と感じてもらえる空間の提供
→ “競技力向上＝ハイレベルな試合を展開” と **“観戦者目線の大会運営”** が不可欠

③リピーターの獲得
→ 平均観戦者数の増加 は、 “競技力の向上”にも好影響をもたらす
→ さらには、協賛企業による長期的固定収入の増加にも好影響をもたらす可能性がある。

学生リーグ会場におけるインフォメーションデスクの設置は、上記の ② 観戦者の満足度の向上 を目的とした施策の一つである。

Ⅱ．試験的実施における成果と課題（2019 年度秋季リーグ戦）

2019 年度秋季リーグ戦（関西福祉科学大学会場）において、試験的にインフォメーションデスクを実施（2 回）（実施方法等の詳細は、別紙（インフォメーションデスク担当者マニュアル）を参照)。

試験的実施における成果と課題について、学連常任委員の意見も含めて以下に示す。

【成果】

・プログラムの販売数が増加した　　※具体数は要確認

・撮影許可証配布場所に関する問い合わせがなくなった

※ただし、いまだに許可申請せず撮影する人もいる

→ これらの成果は、実際に観戦者に調査して確認したわけではなく、運営側で把握できた成果のみ

【課題】

・プログラム販売における金銭面の管理

→常任委員「*学連控室とインフォメーションデスクに距離があり、少しやりづらい時間帯があった*」

→常任委員「*各大学の学生に仕事を与えることで常任の負担はそこまで大きくなかったものの、逆に常任が担当する方が金銭面の管理は楽になるのでは*」

・担当学生の振る舞いに関して

→常任委員「*プログラムを押し売りしている感じがする*」

→常任委員「*携帯電話を触っているなど、だらしない姿もみられた*」

・今後、大学体育館以外の会場（公共施設等）での、プログラム販売、およびグッズ販売を行なう際、許可申請が必要となる可能性有り。

成果に関して、効果を明確に示すことはできないものの、観戦者にとっては良い取り組みだったといえる（松木所感）。2020 年度では、上記の課題を踏まえた上で、試験的実施のマニュアル（実施方法）に修正を検討し、運営する必要がある。

Ⅲ．2020 年度春季リーグ戦での本格実施（案）

1．実施日程および会場

4/12(日)　立命館大、福科大
4/19(日)　立命館大、福科大
4/26(日)　福科大
5/2(日)　田辺
5/5(祝)　太陽が丘
5/6(祝)　太陽が丘

5/9(土)　大阪経済大
5/10(日)　武庫川大、福科大
5/16(土)　大阪経済大 or 福科大
5/17(日)　大阪経済大

2. 実施内容および実施方法

・別紙（2019 年度秋季リーグ インフォメーションデスク担当者マニュアル）に一部修正点を加え、そのまま運用。

3. 検討事項

・担当大学の割り振り　（最重要検討事項）
→開会式にて連絡することが望ましいため、それまでに完了しておく必要がある
→実現可能性について、理事や常任委員で早急に検討する必要あり
→担当者については、昨年秋季リーグのように各大学へ割り振る（常任の負担軽減）※要検討
→基本的に、会場責任者が適宜デスク付近を巡回することが望ましい（学生のみで対応が難しい事項もありうる）

・設置場所の検討および準備物の確認
→大学体育館については、ホーム大学のスタッフに確認し、「どの場所に設置することが可能か」を確認する必要がある。また、机、椅子、ホワイトボード等が借用可能か確認する必要がある（立命館大 佐藤監督、大阪経済大 明石監督、武庫川大 佐久川コーチ）
→公共施設会場についても、大学体育館と同様の確認をしておく必要がある

・公共の体育館における設置場所の検討およびプログラム販売の可否
→要確認

・協賛企業のチラシの設置
→要検討